

平成 23 年度 農薬の大気経路による飛散リスク評価検討会（第 2 回）  
議事概要

1 開催日時及び開催場所

日 時： 平成 24 年 3 月 9 日（金） 14：00～15：55

場 所： 法曹会館（高砂の間）

2 出席委員（五十音順、敬称略）

有田芳子、上路雅子、川幡寛、白石寛明、富田恭範、森田昌敏（座長）、與語靖洋

3 会議の概要

(1) 農薬飛散実態調査について

ア 農薬飛散モニタリング調査結果

資料 2 に基づき、専門家より、フサライドを対象に落下量及び気中濃度についてモニタリング調査を行った結果について報告があった。

落下量の測定値と理論薬剤投下量との関係等について質疑応答が行われた後、調査結果として、以下が確認された。

○落下量については、散布中に最大となり、散布直後まで検出された後、散布 30 分後以降は定量下限を下回った。

○気中濃度については、散布中に最大となり、散布 1 週間後まで検出された後、散布 2 週間後以降は定量下限を下回った。

○落下量、気中濃度ともに、風下に当たる地点で検出され、散布区域から離れるほど減少した。

イ 農薬飛散シミュレーション結果

資料 3 に基づき、専門家より、フサライド及びフェニトロチオンを対象に落下量及び気中濃度について実施したシミュレーションの結果について報告があった。

モニタリング結果との相違点、シミュレーションモデルの精度・信頼性等について質疑応答が行われた結果、

○今回実施したシミュレーションモデルの利用により農薬飛散動態の評価は可能と考えられること、

○実際にリスク評価を行うに当たっては、今後、その他の農薬についてもシミュレーションを実施した上で、最大リスクを評価できるような標準的なシナリオを設定する方向で検討すること、

が確認された。

(2) 農薬吸入毒性評価部会の検討状況について（報告）

資料 4 及び資料 5 に基づき、環境省より、2 月 28 日に開催された吸入毒性評価部会の報告及び平成 24 年度吸入毒性試験対象農薬について報告があり、平成 24 年度の吸入毒性試験対象農薬が了承された。

(3) その他

環境省より、来年度予定について連絡があった。

(以上)